

学校関係者評価委員会規定

(趣旨)

第1条 この規定は、学校関係者評価委員会(以下「委員会」という。)に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 実践的な職業教育の質を確保するため、その教育活動や学校運営に係る自己評価の結果を評価することを目的とする。

(委員の委嘱等)

第3条 委員会を構成する委員は、次に掲げる者とし学院長が委嘱する。

- (1)職能団体関係者
- (2)企業・臨床実習施設関係者
- (3)卒業生
- (4)学校職員

2.委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

3.委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(組織等)

第4条 委員会には、委員長をおく。

2.委員長は学院長が指名する。

(委員会の開催)

第5条 委員会は、年1回開催することを原則とする。

2.委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。ただし、第3条第1号の

(1)から(4)の委員に事故があるときは、代理の者が出席できる。

3.委員会の決議は、出席委員の過半数をもって決する。

4.委員会の評価の結果は、学校ホームページに掲載する。

(守秘義務)

第6条 委員は、その職務に関して知り得た個人情報の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に利用してはならない。なお、この義務は、委員の任期終了後も継続するものとする。

(雑則)

第7条 この規定に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員会が別に定める。

附則 この規定は平成28年4月1日より施行する。

この規定は令和6年4月1日より改訂する。

会議名	職業実践専門課程 学校関係者評価委員会		
日時・場所	2025年1月30日(木) 16:30~17:35 ・ 山口コ・メディカル学院 (対面・オンライン併用)		
出席委員	名 前	所 属 等	種 別
	委 員 A	一般社団法人 山口県理学療法士会 会長	企業等委員/役員
	委 員 B	一般社団法人 山口県作業療法士会 会長	企業等委員/役員
	委 員 C	一般社団法人 山口県言語聴覚士会 会長	企業等委員/役員
	委 員 D	医療法人医誠会 都志見病院 訪問リハビリテーション室 室長 理学療法士	企業等委員
	委 員 E	社会福祉法人恩賜財団済生会支部山口県済生会 済生会山口地域ケアセンター リハビリテーション科 科長 理学療法士	卒業生
	委 員 F	地方独立行政法人 山口県立病院機構 山口県立総合医療センター 技師長 作業療法士	企業等委員
	委 員 G	医療法人まえば小児科クリニック まえば小児科子ども支援事業所 管理者 作業療法士	卒業生
	委 員 H	地方独立行政法人 下関市立市民病院 主任 言語聴覚士	企業等委員
	学 院 長	山口コ・メディカル学院 学院長	学院 参加者
	進 行	山口コ・メディカル学院 顧問	学院 参加者
	学 院 P	山口コ・メディカル学院 理学療法学科 学科長 学生部長	学院 参加者
	学 院 O	山口コ・メディカル学院 作業療法学科 学科長	学院 参加者
	学 院 S	山口コ・メディカル学院 言語聴覚学科 学科長 教務部長	学院 参加者
事務局	山口コ・メディカル学院 事務長・事務(議事録)		(敬称略)
発言者	発言要旨		
学院長	学院長挨拶		
進行	各委員の紹介および本委員会の趣旨についての説明		添付資料
事務局	職業実専門課程について ・政策上の効果(高等教育修学支援新制度・教育訓練給付金等)		添付資料
進行	学院の現状と課題 ・現在の在学者数(学科・学年別) ・4年生の入学からの卒業までの変遷 ・各学科の入学者の推移と入学者減に至った要因分析 (県内私立大学の公立化・新型コロナ以降の学生意識の変化・県外大学進学志向など) ・作業療法学科の定員変更について ・入学者の学力の二極化と退学者の退学理由について ・各学科の国家試験の結果と就職状況(8割を超える県内就職率・主な就職先)		資料共有
	自己評価について	・教育理念・教育方針・教育目標の説明 ・実施方法(実施日・対象・評価項目の達成及び取組状況)について	添付資料 添付資料
〈 学校評価結果及び概況説明を受けての各委員から意見交換 〉			
A 委員	・他校の抱える問題との類似点について(入学定員割れ、退学者、学力格差、職業に抱く意識の乏しさ など) ・山口県理学療法士会の会員数も伸び悩んでいて、入会率も低下している。		
	学院への提案	・卒前卒後教育の場において、県士会と養成校との連携の機会を具体的に増やしていきたい。	
進行	・高校ガイダンスでも、進学先にリハビリ職種を希望する学生やその職業に対する意識も下がっているように感じています。 ・県外への大学志向が高まっている		
B 委員	・山口県作業療法士会でも、養成校の定員割れは、若い人材の減少にも繋がり、危機感を感じています。		
	学院への提案	・県内の他養成校とも連携した形で、何か山口県作業療法士会との関りをもつ企画を検討したいと考えています。 ・小中学生対象にリハビリの仕事の内容や魅力を知ってもらうための学校訪問活動を始めています。 ・近年、山口県作業療法士会の会員数、入会率ともに停滞しており、職能団体に入会することのメリットや社会的役割など 養成校在学中からの啓発や周知の機会が必要と感じています。	
C 委員	・山口県言語聴覚士会も他の県士会と同じく、会員数に大きな変化はありません。啓発活動のむずかしさを感じています。 言語聴覚士が関わるドラマやメディアをうまく活用していきたい。		

	学院への提案	<ul style="list-style-type: none"> 山口県言語聴覚士会と養成校との連携では、在学中から、何らかの関りの場を設けることで、卒業後の向上心や職業意識を高めることに結び付けたい。 教職員の回答から、前向きな意見を取り入れることで学院の改善に繋がると感じました。
D 委員	(実習関係者)	<ul style="list-style-type: none"> 退学理由に、職業イメージのギャップや将来への不安、動機の変化などが推察される。同時に教育や臨床の場で、職業の魅力が上手く伝わらない理由には、基礎学力や考える力の低下が関係していると感じています。 仕事の将来性やその魅力発信の機会をもっと増やすことが必要と考えます。
E 委員	(卒業生・実習関係者)	<ul style="list-style-type: none"> 入学者減少と退学者の問題について、学生の抱く理学療法士に対するイメージのギャップや実際の仕事内容を知るにつれその興味や関心を失ったことが影響していると考えます。 学内教育では、さまざまな領域で活躍している卒業生や理学療法士と関わる機会を提供することで、もっと理学療法の仕事を理解してもらうことで、自分の適性に活かしてもらいたい。
進行	定員について	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学の養成校は定員を充足していますが、それ以外の私学の養成校は、定員を充足していないところが多数を占めています。そのような現状を踏まえ、オープンキャンパスでは、学校の教育方針、教育目標、就職などと共に4年間、学ぶことへの覚悟も同時に伝えています。退学理由には、基礎学力の問題やアルバイトとのバランス、臨床実習を通して感じた個人の適性などが挙げられています。
F 委員	(実習関係者)	<ul style="list-style-type: none"> 入学の動機は、リハビリに対する自分や家族の実体験や身近な医療関係者からの紹介などが考えられますが、現在も医療機関では、面会制限などが続いており、入学前の職業体験や見学の機会が制限を受けています。そのため、高校生だけでなく、もっと小さい頃からリハビリの仕事やその魅力に触れる機会が必要と感じています。職場でも他職種と連携として、リハビリの仕事を実践できる機会では、その魅力が伝えられるようにしたいと考えています。
G 委員	(卒業生)	<ul style="list-style-type: none"> 職業の魅力はどう発信するかが大切と考えています。また社会貢献の一環として、小学校への出張講座を行っていることは意義がある活動と感じています。
	(保護者)	<ul style="list-style-type: none"> 県内私学への進学は、経済的側面から、各種奨学金や修学支援に加え、学院の修学支援制度を拡充していただくことが、保護者の判断に影響すると考えています。
進行		<ul style="list-style-type: none"> 公設民営のメリットを活かしていますが、教育の質を担保する為の人件費などにより、今年度から学費が5万円上がりました。一方、学生への支援として、高等教育の修学支援新制度の認定校であることをアピールしています。
H 委員	(実習関係者)	<ul style="list-style-type: none"> 仕事の魅力を発信していくことが、入学者増加にも繋がっていくと感じています。 看護師の職業体験の中で、リハビリ関係職種との関りの面でアピールしていますが、高校生への職業理解や浸透度はまだまだ低いと感じています。様々な機会でもリハビリの仕事の魅力を伝えることで、少しでも人材の流れや職業選択の意識に影響を与えることが、現場で出来る役割かと考えています。 成績の二極化の影響は、臨床実習の場にも現れていると感じています。実習課題をこなす上に、自分で学び続けることが困難と感じる学生が増えたと感じています。その為、学力低下者への支援も大切と考えます。
〈 外部委員からの意見をお聞きして各学科長より 〉		
学院 S	教務部長	<ul style="list-style-type: none"> 成績の二極化、退学率、学習意欲の低下を踏まえ、来年度から3学科ともに新カリキュラムへ移行します。 なお、新カリキュラムの骨子および成績下位者への取り組みは、次回の教育過程編成委員会にてお伝えいたします。
学院 O	作業療法学科の取組	<ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスの参加を見据え、学校をどのように認知してもらうかが大切と考えています。 具体的な取組として、山口市社協との小学校への訪問活動(福祉教育)やInBodyによる部活動サポートによる高校訪問に学生も同伴し、その活動をSNSで発信しています。 学生には、4年後の国家試験に向けて、そのモチベーション維持のために日々の授業の工夫に取り組んでいます。
学院 P	理学療法学科の取組	<ul style="list-style-type: none"> 来年度からカリキュラムを改訂いたします。職業に対するイメージの乏しい学生が多いので、今年度から1年次病院見学を再開しています。今後もご協力をお願いいたします。
進行	閉会の挨拶	<ul style="list-style-type: none"> 謝辞および職業選択におけるリハビリ分野を目指す人材を増やしていくことへの連携協力を依頼しました。